競 技 注 意 事 項

1　競技規則

本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会競技注意事項によって実施する。
ならびに本競技会では競技会における広告および展示物に関する規程(広告規程)を適用する。

2　練習について

⑴　練習については、役員(練習会場係)の指示に従い行う。
⑵　競技場での練習については、開場からトラック種目最初の開始時刻30分前まで認める。
　　それ以降では、原則補助競技場および雨天練習場等で練習を行うこと。
⑶　本競技場・補助競技場ともに逆走は禁止する。
⑷　トラックにミニハードル等、私物の道具を置くことは禁止する。
⑸　練習等でトラックにテープ等を貼った場合、練習後には必ず回収する。
⑹　投擲の練習については、指導者が付き添いのもと行うこと。
⑺　棒高跳については、競技場所での練習を認める。(競技者以外の入場は認めない)
⑻　練習会場使用日程は原則以下の通りとする。

場所	練習可能時間及び指定場所	
期日	22日（火）	23日（水）
本競技場	7：30～9：00 〇1～2レーン：長距離 〇3～8レーン：短距離・リレー ハードル ※ホームストレート 7、8レーン男子　110mH 3～6レーン女子　100mH	7：30～9：00 〇1～2レーン：長距離 〇3～8レーン：短距離・リレー ハードル ※ホームストレート 7、8レーン男子　100mH 3～6レーン女子　80mH
補助競技場	7：30～16：30 〇1～2レーン：長距離 ・1レーン　スピード練習 ・2レーン　ペース走 〇3～8レーン：短距離・リレー 男子110mH　7：30～9：30 （女子100mHは本競技場のみ） 砲丸投　7：30～12：00 （7：30～9：00は１年生優先） 走幅跳　7：30～15：00 三段跳　12：00～15：00 走高跳　7：30～15：00	7：30～16：30 〇1～2レーン：長距離 ・1レーン　スピード練習 ・2レーン　ペース走 〇3～8レーン：短距離・リレー 男子100mH　7：30～9：30 （女子80mHは本競技場のみ） 走幅投　7：30～8：30 三段跳　8：30～12：30 走高跳　7：30～12：15 ※円盤投、ジャベについては23日のみ、競技場所での練習を認める。

3　招集について

⑴　招集所は、本競技場第3コーナー付近（バックスタンド下）に設け、招集は招集所で行う。
　　なお、男子棒高跳は競技場所現地にて招集を行う。
⑵　招集時間は、開始・完了ともに、競技順序に記載された時刻で行う。
⑶　招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとして出場を認めない。
⑷　招集の方法については、以下の通りとする。
　①　招集完了時刻までに招集場所にて競技者本人が競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス・競技用シューズのスパイクピン・靴底の厚さ・ウェアや所持物の商標の点検を受ける。

② トラック競技出場者は腰ナンバーカードを受け取る。受け取った腰ナンバーカードは、競技終了後に返却すること。
③ 携帯電話、ミュージックプレイヤー、および外部との通信機能のある腕時計等、TR6.3.2に関わる電子機器を持ち込んではいけない。
④ 代理での点呼は認めない。2種目同時に出場する競技者は、招集開始時刻前に事前に競技者係へ申告する。トラック競技が先に行われる場合は、トラック競技終了後、フィールド競技場所へ移動する。フィールド競技が先に行われる場合は、フィールド審判員に申告し、指示に従い、トラック競技へ出場する。
⑤ 各種目を棄権する場合は、招集開始時刻前に競技者係へ申告する。

4 アスリートビブスについて

⑴ アスリートビブスは、2026年度鹿児島陸協登録時に配布され、申込時に入力したものを使用すること。アスリートビブスは、配布されたままの大きさでユニフォームの胸・背部につけること。（TR5）。
⑵ 跳躍種目に出場する選手は、胸部・背部どちらか一方だけ取り付ければよい。
⑶ アスリートビブスを取り付ける安全ピンについては、各自で用意すること。

5 競技場の入退場について

⑴ 招集所から競技場への入場は、競技者係の指示に従い、決められたルートで移動すること。
⑵ 競技終了後は、役員の指示に従い、場外へ退場する。(本部席前は通行禁止)
⑶ 競技者以外(付き添い等)は、招集所以降、競技場所へは立ち入る事ができない。
⑷ 3位までの入賞者は、競技役員の指示で、表彰者控え場所へ移動する。そこで待機し、役員の指示で表彰を受け、退場する。

6 番組編成について

⑴ トラック競技については、プログラム記載の組・レーン順、フィールド競技の試技順については、プログラム記載の番号順とする。
⑵ 予選を行った後の決勝種目については、予選の結果をもとに、競技規則TR20に基づき番組編成を行いレーンを決定する。
⑶ トラック競技において、次ラウンドへの進出者が1/100秒単位で同記録があった場合、1/1000秒単位で判定を行い、進出者を決定する。タイム差が無い場合は抽選を行う。
⑷ 抽選が必要な場合は、アナウンスにより競技場内に連絡し、競技者本人もしくは、代理人にて抽選を行う。アナウンス後20分を経過しても該当者が現れない場合は、権利を放棄したものとみなす。また、該当者が一人も現れない場合は、主催者が代行して抽選を行う。

7 競技について

⑴ TR4.4は適用しない。欠場については、エントリーした各種目について申告する。
⑵ トラック競技について
① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置で行う。
② レーンで行う競技は、欠場者のレーンを空ける。また安全対策の為、フィニッシュ後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を通過する。
③ 不正スタートを行った競技者は失格とする。
④ スタート時、他の競技者の不正スタートを生じさせた場合や、スタート時の動作等に遅延行為がみられる場合などはイエローカードが提示され警告となる。警告が2回累積されると、退場となり以降の競技に出場できなくなる。
⑤ 1500m以上の競技においてはタイムレースとし順位を決定する。それ以外の種目およびリレーは予選を行い、予選記録上位8名(リレーはチーム）で決勝を行い順位を決定する。
⑥ 100m、200m、80mH、100mHについては、風向等グラウンドコンディションの状況により、バックストレートで競技を行う場合がある。その際もプログラム記載のレーンでレースを行う。
⑦ 男子3000mにおいては、気候条件を鑑みて、主催者が給水を準備する場合がある。
⑶ フィールド競技について
① フィールド競技の測定については、一部光波測定器を使用する場合がある。
② 競技前に行う公式練習は原則2回とし、競技役員の指示によって行う。走幅跳においては、競技前に行う公式練習を設けず、競技開始時間までを各自練習時間とする。練習開始と終了のタイミングは役員の指示に従うこと。

（競技の進行状況によっては、変更する場合がある）

③　走幅跳、三段跳および棒高跳、またジャベリックスローの競技者は、助走路の外側に主催者が準備したマーカーを2個まで設置することができる。また砲丸投および円盤投は、同じくマーカーを1個だけ使用できる。走高跳に出場する競技者は、各自でマーカー（粘着テープ、2カ所以内）を助走路内に使用することができる。使用したマーカーは競技終了後、役員の指示があった後、各自で片付けること。

④　棒高跳の選手は、競技開始前に、自分の希望する支柱の移動位置を跳躍審判員に申告すること。その後位置を変更したい場合は、試技開始前までに、跳躍審判員に申告すること。これを怠った場合は、位置変更をセットする時間も試技制限時間に含まれる。

⑤　走幅跳はA･Bの2ピットで競技を行う。全競技者に3回の試技が許可され、上位8人による後半試技を3回行う。

⑥　「コーチングエリア」は設置しない。選手への助言等は競技進行に支障のない場所から行うこと。競技者が直接手に取って映像等を確認することは認めるが、機器等の持ち込みや持ち出しは認めず、その場で確認する。また機器は手渡しのみ認め、投げ渡し等は認めない。

⑦　TR4.3は適用せず、同時にトラック競技とフィールド競技あるいは2種目以上のフィールド競技に出場している場合には、フィールド競技の各試技の1ラウンドに一度、走高跳および棒高跳では各試技に一度、決められた順序によらないで試技を行うことができる。その後の試技を行うべき順序の際に不在の場合はその試技時間が過ぎればパス扱いとなる。

⑷　リレー競技について

①　リレーオーダーは、各組の招集完了時刻1時間前までに、招集所に用意してある所定の用紙に記入し、招集所の競技者係に提出する。

②　競技者は、大きさが最大50mm×400mmの恒久的なマーキングと混同しないようなはっきりした色の粘着テープをマーカーとして1カ所、自らのレーンに貼ることができる。それ以外のマーカーは使用できない。競技後は、前走者が自分のレーンに使用したマーカーを剥がすようにすること。

③　4×100mRにおいては、原則として同一のユニフォームで出場すること。同一ユニフォームで なくても失格とはならないが、極力同一のユニフォ ームで出場すること。また、極力デザイン･色等については類似したもの使用し、同一チームとしての判断ができるものを着用すること。

⑸　競技者は、携帯電話、ミュージックプレイヤー、および外部との通信機能のある腕時計等、競技規則TR6.3.2に関わる電子機器を所持・使用してはならない。また、競技場所を勝手に離れることはできない。

⑹　競技規則または、競技注意事項に違反する行為がある場合、また競技者としてあるまじき行為がある場合は、警告(イエローカード)または除外(レッドカード)を通告されることがある。

8　走高跳・棒高跳について

⑴　走高跳・棒高跳のバーの上げ方、および練習の高さについては、1位が決定するまでは以下の通りとする。ただし、天候等の状況により、審判長の判断で変更することがある。

種目	種別	練習	バーの上げ方
走高跳	共通男子	1m35/1m65	1m40から1m80まで5cmずつ　1m80以降3cmずつ
	１年男子	1m15/1m35	1m20から1m50まで5cmずつ　1m50以降3cmずつ
	共通女子	1m20/1m40	1m25から1m60まで5cmずつ　1m60以降3cmずつ
	１年女子	1m05/1m25	1m10から1m35まで5cmずつ　1m35以降3cmずつ
棒高跳	共通男子	自己申告	1m90から4m00まで10cmずつ　4m00以降5cmずつ

⑵　公式練習について

示した高さを競技者が選択し2回行う事ができる。棒高跳については、事前に支柱の位置を申告しておく。走高跳は正規のバーで行う。棒高跳はゴムバーで行う。

9　三段跳びについて

⑴　踏切版は、男子10m、女子8mの位置に設定する。

10　競技用具について

⑴　競技に使用する用具については、棒高跳のポール以外、原則主催者が用意したものを使用しなければならない。なお、投擲の持ち込みについては認めない。

⑵　ハードルの規格については以下の通りとする。

種別	種目	高さ	1台目まで	ハードル間	10台目以降	ハードル台数
男子共通	110mH	0.914m	13.72m	9.14m	14.02m	10
男子１年	100mH	0.840m	13.00m	8.50m	10.50m	10
女子共通	100mH	0.762m	13.00m	8.00m	15.00m	10
女子１年	80mH	0.762m	12.00m	7.50m	15.50m	8

⑶　投擲の規格については以下の通りとする。

種目	男子共通	男子1年	女子共通	女子1年
砲丸投	5.000kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg
円盤投	1.500kg		1.000kg	
ジャベリックスロー	0.300kg		0.300kg	

11　競技用靴について

⑴　スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・ジャベリックスローは12mm以内とする。
⑵　競技用靴の厚さについては、以下に示すものとし、WAシューズ規程を適用する。(TR5)ただし、サークルを使用する投擲競技においては、WAシューズ規程は適用されない。

12　抗議について

結果発表アナウンス後、結果に対する抗議は、TR8.2に定められた時間内(次ラウンドがある場合は、15分以内、それ以外は30分以内)に競技者自身、もしくはチームを公式に代表する指導者等から総務(総務員)を通じて、審判長に口頭になされなくてはならない。その後の審判長からの裁定に納得ができない場合は、預託金(2万円)を添えて、総務(総務員)を通じて「抗議申立書」で申し出る。「抗議申立書」は総務が準備する。

13　表彰について

各種目1～3位に賞状を授与する。

14　その他

⑴　競技場の開門は7:30とする。係の指示に従い入場すること。
⑵　大会プログラムは競技場正面入り口内にて販売する。
⑶　記録の証明を希望する場合は、受付に申し出ること。
⑷　競技会の結果については、競技場正面入り口付近に掲示する。なお鹿児島陸協HPでも公開する。
⑸　競技場内に持ち込む衣類・バック等については広告規程を適用する。
⑹　更衣室の利用については、更衣のみとし、控え場所としての使用は認めない。また貴重品等の管理については、各自で責任をもって行うこと。
⑺　事故発生については、応急処置を当協会医師・医務員が行うが、他の一切の責任は負わない。各自スポーツ安全保険に加入しておくこと。
⑻　メインスタンドへのテント設置はできない。バックスタンド中段より上は許可する。
⑼　スタンドの座席に物等を置いたりしての場所取り行為を禁止する。
⑽　各自が出したゴミは必ず持ち帰ること。
⑾　個人プライバシー保護のため選手関係者以外の撮影を禁止とする。望遠レンズを使用しての撮影は一切禁止する。違反が認められた場合は鹿児島陸上競技協会の規程に基づき対処する。
⑿　個人情報の取り扱いについて
①　大会プログラムに掲載する。
②　記録掲示板、ホームページに掲載する。
③　競技場内アナウンスに使用する。
④　競技結果等、報道機関、関係各所に提供する。
⑤　優勝記録や大会記録等、次年度以降もプログラム等に掲載する。
⑥　各報道機関・メディアに写真や映像が公開されることがある。